設備工事情報シート	衛　生	Ⅱ－P－16	制 定	2005年4月1日
			改 訂	2015年3月1日
Ⅱ．メーカー情報	ステンレス管（転造ねじ式継手）		東尾メック編	

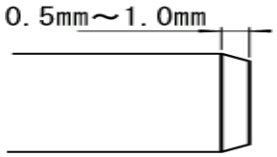
1．目的・概要

住宅の給水および給湯配管に使用する一般配管用ステンレス鋼管継手は、メーカー毎に使用部材および施工要領が異なっている。使用する継手およびその施工要領の認識不足による不具合を未然に防止するためには、施工に採用する継手メーカーの配管接続方法を確認する必要がある。

以下に、東尾メック㈱の転造ねじ式アバカス継手の施工要領および施工のポイントを示す。

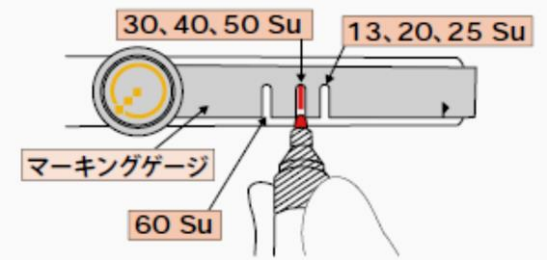
2．施工手順およびポイント

（1）切断. 面取



①管の断面が変形しないように管軸に直角に切断する。
なお、砥石切断は禁止。
②管の外面取りは必ず行うこと。面取りの大きさは1.0～0.5㎜程度、作業はリーマ、ヤスリ等使用。

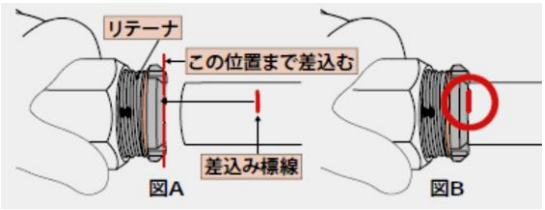
（2）標線記入



①マーキングゲージ（無償配布品）を使用し管の端部から所定位置に差込確認の標線をサインペン等で記入する。
標線の位置は下表のとおり。

呼び径（Su）	13	20	25	30	40	50	60
標線位置（mm）	43			46			70

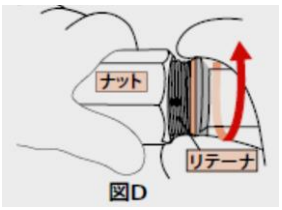
（3）管の差込み



ポイント図A・図B：　標線が隠れるまで差込む

①管に記入した標線が隠れるまで完全に差込みする。
ポイント図Ａ・図Ｂ
②なお、リテーナは外さないで差込する。
差込する前にリテーナを締めるとそろばん玉の位置が内側に寄り管が差込み出来なくなるので注意。

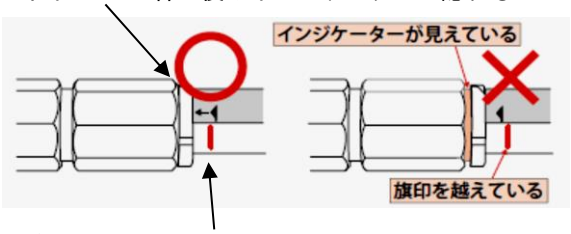
（4）リテーナ手締め



①リテーナを手締めし、管とナットねじの間に隙間のないように仮締めする。図Ｄ
手締めが完了すると、ナットを回すトルクが管に伝わる。リテーナ手締め後は放置せず連続してナット締めを行う。

（5）ナット締め

ポイントB：締め後はインジケーターが隠れる



ポイントC：標線が旗印を越えないこと

①管をパイプレンチ等で固定し、ナットをレンチで締め付ける。リテーナのインジケーターが見えなくなれば締め付けは完了。ポイントB
ナット締めにより管の標線が見えるようになる。
②施工確認を再度マーキングゲージを使用して標線位置がゲージ範囲内であることを確認する。
ポイントC

注：この情報シートは日建連の基準、規格ではありません

資　　料

３．一般配管用ステンレス鋼管継手部材(抜粋)、構造・特徴

(１)主要品（写真）

エルボ

ソケット

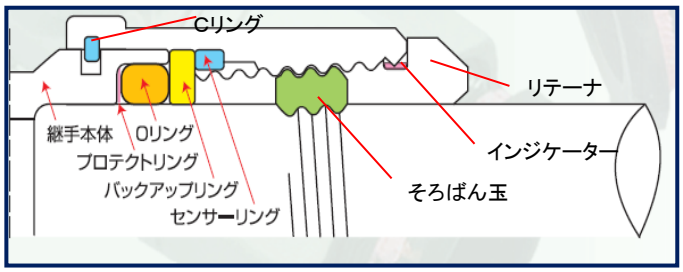
チーズ

おすアダプタ

ストリートエルボ

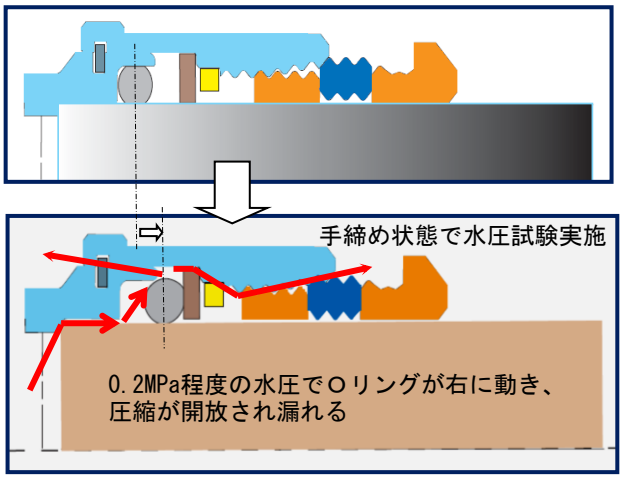
給水栓用継手

(２)構造と部品名称



継手断面

(３)構造特長(ナット締め忘れ放置は水圧試験で発見可能)



４．水圧検査　合否判定基準　(HASS 010-2000,206-2000 抜粋)

系統名		試験水圧	
		試験圧力	最小保持時間
冷却水・冷温水		最高使用圧力の1.5倍とする。ただし、 最小0.75MPaとする。	30分
給水・給湯	直結	最小1.75MPaとする。ただし、水道 事業者に規定のある場合は、 それに従うものとする。	60分
	高置水槽以下	実際に受ける圧力の最小2倍とする。 ただし、最小0.75MPaとする。	60分
	揚水管	ポンプ揚程の最小2倍とする。ただし、 最小0.75MPaとする。	60分

５．問い合わせ先　　東尾メック株式会社 営業グループ（ 0721-53-2281 ）

担当地区	担当者	電話番号
北海道、東北	谷　正実	090-9052-1078
関東、甲信越	大江　慎太郎	090-1592-4708
関東	西　大輔	080-1471-9375
中部、北陸	高原　淳史	090-7106-5104
近畿	橘　一成	080-8517-7165
中四国、九州、沖縄	井上　竜也	080-2446-9012

注:この情報シートは日建連の基準、規格ではありません